



基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

院長 福治康秀

皆さん、新年あけまして、おめでとうございます。

旧年中は、各関連機関の皆さんには、各方面でお世話になりました。どうもありがとうございました。本年もまたどうぞよろしくお願いたします。

さて、昨年の出来事では、大きな喪失がありました。一つは中村哲先生が急逝されたことです。当院の前院長の村上優先生がペシャワール会の会長であり、当院の活動方針の中心には、中村哲先生の考えが多く反映しています。その中村哲先生があのようなかたちで急逝されたことは、痛恨の極みです。村上優先生がペシャワール会会長に加え現地代表となりました。当院としても、全面的にバックアップします。

もう一つの喪失は首里城です。私は、首里育ちで首里高校出身ですので首里城は身近な存在です。早い再建を願っています。

昨年は、大きな学会を2つ担わせていただきました。一つは九州アルコール関連問題学会、もう一つは日本病院・地域精神医学会です。その際には、皆さんのご協力、ご支援をいただきました。どうもありがとうございました。

また、昨年は台風19号により全国において被災が相次ぎましたが、その際のDPAT事務局を当院スタッフと平安病院スタッフで担いました。協力して無事に担えたことは大きかったと考えます。ありがとうございました。

また、昨年当院は、精神科スーパー救急病棟と沖縄県依存症専門医療機関(アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル等依存症)を取得しました。そして、新築に伴い増床した重度心身障害児・者の入院を積極的に行っています。今後とも、各精神科専門医療と精神科救急医療をさらに発展させるべく、スタッフ一同全力を尽くします。そのためには、さらなる各関連機関との連携が重要です。どうぞ、よろしくお願いたします。

さて、今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックの開催年となりました。いろんな競技でメダルが期待されていますね。皆さん、それぞれ楽しみにしているのではないのでしょうか。また、今年の干支は「庚子(かのえ・ね)」とのことです。子は始まり、芽吹きを意味し、庚は終わり、成熟を意味するとのことです。庚子(かのえ・ね)は、60年に1度めぐると新たな芽吹きと繁栄のはじまりとされ、新しいことを始めると上手くいきやすいのが特徴とのことです。皆さん、新しいことにチャレンジしてはいかがでしょうか。当院も、チャレンジを続けていく決意です。

今年が、皆さんにとってより良い年になることを祈っています。

今年も、どうぞよろしくお願いたします。



● 地域医療連携室だより

新年あけましておめでとうございます。今年も地域の皆様と連携させて頂きながら、地域の精神医療に貢献していけるよう、地域医療連携室一同、力を尽くしていきたいと思っております。宜しくお願い致します。

年はじめの1月は、人が集まりお酒を飲む機会が増える月です。祝い事、楽しい事が多いといつもよりお酒の量が増えがちです。今年の目標として「健康」を掲げ、お酒の量を減らしたい、そろそろお酒から卒業をお考えの方は、お気軽に当院にお問い合わせください。

※お問い合わせ先：地域連携室 098-968-2133 内) 231, 234

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、
首里高校卒。

1993年琉球大学医学部卒、
琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年
琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、
2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- ・ 一般精神科
- ・ こども心療科
- ・ 物忘れ外来
- ・ アルコール依存症等外来

病床数 416床

・ 精神科病棟	151床
・ 認知症	56床
・ アルコール	54床
・ 児童思春期	
ユニット	4床
・ 重症心身	
障がい	90床
・ 医療観察法	37床



● アクセス

路線バス/那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス
[17番名護線]浜田バス下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

NHO PRESS~国立病院機構通信~について

琉球病院は、国立病院機構(NHO: National Hospital Organization)という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構(NHO)という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する「NHO PRESS~国立病院機構通信~」を発行しています。外来ロビーに設置していますので、ぜひご覧になってください。

なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。

お問い合わせ時間
8:30~17:15 (土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133 (代)
内線: 231・234
地域医療連携室(直通)
TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療

医師 木田 直也



クロザピンの治療状況

2010年2月から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン(CLZ)治療を開始し、全症例は延べ291例になりました。2019年11月のCLZ導入は5例で、このうち2例は他の病院からのご紹介をいただきました入院中の患者さんでした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者さんも多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者さんのご紹介をお願いいたします。

m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT(修正型電気けいれん療法)による治療を行っています。

こども心療科

心理療法師 仲間 信也

子どもの入院治療を行うために、子ども専用のユニット(4床)があります。入院中は、子どもの治療目標に合わせた個別面接や集団活動を実施していますが、季節感を味わえるよう、その時期に合わせた活動も取り入れるようにしています。12月にはクリスマス会を開催し、子どもたちと一緒にケーキ制作も行いました。ケーキ制作では、子ども同士で教えあいながら、それぞれが創意工夫してデコレーションしている姿が印象的でした。できあがったケーキは、みんなでおしゃべりしながら分け合って食べ、スタッフから「おいしい」と褒められると嬉しそうなお表情を見せてくれました。このようなイベントは子どもたちにとって楽しい時間ですが、病院スタッフにとっても、普段とは違う姿が見られる良い機会となっています。今後も季節に合わせた様々な企画を取り入れていきたいと思っております。



認知症医療

東Ⅲ病棟棟師長 宮城 尚子

新年、お正月を迎えるとお客様が来たりと、人と会う機会が多くなります。なかなか会えない人に会えるのは嬉しいことですが、お互いの元気な姿を確認できるのは幸せなことです。しかし、認知症の方は賑やかであわただしい所で過ごすとは体調を崩される方もいらっしゃいます。認知症の方が賑やかな所で体調を崩されるのは、認知機能が低下しているために多くの刺激を処理できず、自分の状況が分からなくなり不安が高まるためです。物音や音楽、たくさんの方の会話、入れ替わり立ち代わり挨拶に来る来客、処理しきれない刺激が次々に来ると、理解できないことばかりとなり、自分がどこにいるのか、何故ここに居るのか、何をしたらいいのか、人からどう思われているのかが分からなくなり不安が募ります。しかし周囲の状況から何かをしななければならないと思ひ、頑張らなければならないと興奮したり、昔行っていたことを再現して役割をはたそうとします。何をどこまでしたらいいかが分からないため、行っていることを終わらせることが出来ず、不眠となる方もいます。対応方法としては刺激のコントロールと不安を解消する言葉かけを行います。複数の人が同時に話さない。1人の人が話し終わって次の人が話しかける時は、前の人との会話を本人が終了したと思っているかを確認してから会話を始める。そうすることで前の人との会話で心残りなことがあっても、前の人との会話を理解できずに生じた不安を持続する事無く、次の人との会話に入ることが出来ます。この様に刺激の量や入り方、刺激が入った後の処理(判断・意味づけ)を手助けすることで、認知症の方もお祝いの場や賑やかな所でも混乱することなく楽しく過ごすことが出来ます。

重症心身障がい医療

療育指導室長 金城 安樹

12月19日(木)山の子ホールにてクリスマス会を開催しました。今年はインフルエンザや発熱の関係で活動制限がかかっていた時期もあったためクリスマス会を開催できるか不安もありましたが、無事に両病棟合同で楽しいクリスマス会が行なえたことをとても嬉しく思っています。イルミネーションを増やしたりダンス教室「カナデノウツ」さんの出演があったりと昨年よりバージョンアップしたクリスマス会になったのではないかと感じています。カナデノウツさんは、歌とダンスを披露して頂きました。利用者様やご家族もリズムに乗って身体を動かしたり、一緒に歌を歌ったりと会場全体が盛り上がりました。盛り上がった後にはサンタクロースが可愛いダンスで登場しプレゼントを配って頂きました。ダンスにサンタクロース、プレゼント等多くの場面で皆さんの素敵な笑顔を見ることができました。クリスマス会が楽しい雰囲気と皆さんの笑顔で終えることができたのは携わって頂いた皆様の協力のおかげです。また、来年のクリスマス会がどのようなのかとても楽しみです!!今年も西病棟の行事運営にご理解とご協力をいただきましてありがとうございました。



アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い「飲酒欲求」を直接和らげてくれる作用があります。当院では令和元年11月末現在、外来通院中の患者さん85名、入院中の患者さん12名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者さんの方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者さんへは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療

訪問看護師長 嘉手苺 美智留

昨年4月から11月までの訪問看護総件数は、6267件のご利用をいただきました。遠くは国頭から浦添まで往復150K余りの距離があるケースもあります。新規のご利用の利用者様で入院中の利用者様については、ケースカンファレンスへ参加し、利用者様とご家族への顔合わせと訪問看護についての説明と情報共有を行っています。退院後は利用者様が地域や家庭でより充実した生活が過ごせるよう地域と連携を取り、多職種で情報を共有し個々の生活スタイルに合わせた支援を行えるように努めています。令和2年も多くの利用者様とご家族に安心と満足が届けられるような訪問看護を目指していきたいと思っております。

臨床研究部活動状況

心理療法師 前上里 泰史

あけましておめでとうございます。昨年は当院のさまざまな領域で行っている臨床研究についてご報告させていただきました。個々のスタッフが日々の臨床で疑問に思うことについて研究的視点をもって取り組んだ研究から、国の施策につながる厚生労働科学研究や他施設との共同研究など幅広い臨床研究に関わってきました。また沖縄県内において九州アルコール関連問題学会、病院・地域精神学会が開催され、多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。今年も当院で取り組む研究に関する情報を届けていきたいと思っております。今年もよろしくお願ひいたします。